

年齢別保育のねらい

年齢	0 歳 児	1 歳 児	2 歳 児
発達の特徴	<p>(前期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発育発達のはやさが著しく、それぞれの月齢によって発達上の特徴が異なる。 ○精神的にも肉体的にも最も未熟な時期であり、生活の大半をおとなに依存しているため母親対子どもなど特定の人との関係が継続している。 <p>(後期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歩けるようになり、押す、投げるなどの運動機能が増し、行動範囲が広がり探索活動への意欲が高まる。 ○身近な人に愛着を示し積極的にかかわりをもとうとする。 ○人見知りが激しくなる。 ○保育者が仲立ちとなりながら、子ども相互のふれ合いが見られる。 ○おとなの言うことがわかるようになり、保育者への欲求や意志を発声や身振りなどで伝える。 ○身近な人の身振りを模倣したり、保育者の話しかけに簡単な言葉や動作で応じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○排泄欲求の自覚とコントロールが発達する。 ○歩行が進み、手が自由になり物を物として扱い始める。 ○自分の欲求が強まり、表現しよう、おとなにわからせようという意欲が生じる。 ○指さしで意味づけや他人への伝達をする。 ○自分ですると自己主張をするが、できない矛盾を保育者に依存しながら解決していく。 ○自我が芽生え、他児の存在や行為に感心を持つようになり、かんしゃく、かみつき、けんかとして表れる。 ○一語文が増え、ことばを理解する力が発達し、二語文を話し始める。 ○模倣が芽生え「みたて」「つもり」遊びが始まる。 ○音楽に合わせて動作することを楽しみ、基礎的なリズム感が表れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な身の回りの始末を自分でしようとする。 ○身のこなしが少しずつ巧みになり、走る、とぶなどの運動機能や手先の動きが発達する。 ○まだおとなへの依存が強く情緒不安定である。 ○自他の区別がつき、自己主張が強く、所有意識もはっきりし、けんかが起こり易い。 ○ひとり遊びや平行遊びが多く見られるが、時には友達とかかわって遊ぶ。 ○「大きい・小さい」「好き・嫌い」など対の関係がわかり、どちらかを選ぶ力がついてくる。 ○周りのおとなの行動に興味を示し、さかんに模倣する。 ○日常生活に必要なことばを知り、やりとりを楽しむ。 ○「みたて・つもり」遊びが盛んになり、ごっこ遊びの芽が育ってくる。 ○簡単な歌をうたったり、リズムに乗って体を動かしたりする。
課題	依 存 の 時 代	探 索 の 時 代	模 倣 の 時 代
ねらい	<p>(前期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○心地よい環境の中で、一人ひとりの生活のリズムを重視し生理的欲求を満ちし情緒の安定を図る。 ○抱いたり語りかけたりしながら一人ひとりの子どもの依存欲求にやさしく応え、発声や喃語に应答したりして発語の意欲を育てる。 <p>(後期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人差に留意しながら離乳の完成を図る。 ○安心できる保育者との関係のもとで、食事、排泄などを通して自分でしようとする気持ちの芽生えを育てる。 ○安全で活動しやすい環境の中で、様々な身体活動を十分にさせる。 ○聞く見る触るなどの経験を通して感覚や手や指の機能を育てる。 ○一人ひとりの子どもの依存欲求を満ちし、いろいろな環境の中で、発語の意欲を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりの子どもの生理的欲求、甘えなどの依存欲求を満ちし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ○様々な食品や調理形態になれ、楽しい雰囲気のもとで食べることができるようにする。 ○一人ひとりの子どもの状態に応じて睡眠など適切な休息を用意し快適に過ごせるようにする。 ○保健的で安全な環境をつくり、一人ひとり体の状態を観察し快適に生活できるようにする。 ○探索活動を十分に行わせ、やり終えた満足感を味わわせる。 ○保育者が子供に話しかけを十分に行い、言葉の習得を助けるようにする。 ○保育者との触れ合いの中で身近な絵本や音楽などに親しませ心豊かな子どもに育てる。 ○身の回りのものや小動物・植物を見たり触れたりして興味や関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しんで食事・間食をとることができるようにする。 ○安心できる保育者との関係のもとに食事・排泄などの簡単な身のまわりの活動を自分でしようとする。 ○保育者と一緒に全身や指を使った遊びを楽しむ。 ○保育者の仲立ちで友達とのかかわりができ、一緒に遊ぶ楽しさを知る。 ○保育者を仲立ちとして生活に必要な言葉を知り、言葉のやり取りを楽しむ。 ○保育者と一緒に模倣遊びやごっこ遊びを楽しむ。 ○いろいろな歌をうたったり表現したりして楽しむ。

年齢別保育のねらい

3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児
<ul style="list-style-type: none"> ○生活の流れがわかり、基本的な身の回りのことをする。 ○全身運動はバランスがよくとれるようになり、基本的な運動機能が確実になる。 ○自己主張が強く、ぶつかりあいが見られるが、簡単な約束を守って友達と行動することもある。 ○探究心が強く、いろいろ知りたがり試そうとするが危険に対する見通しが乏しい。 ○言葉の数が増し、おしゃべりが活発になる。 ○身の回りのおとなの行動や日常経験していることを取り入れたごっこ遊びが盛んになる。 ○絵を描いたり、物を作ったりする活動も盛んになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的生活習慣の意味がわかり、おおむね自立する。 ○利き腕がはっきりする、また両手の指先を協応させる。 ○自制心や協調性が身につきはじめ集団の一員として行動しようとする。 ○想像力が広がり、時にはそれが誇大表現や話し言葉となる。 ○観察力、好奇心が旺盛になる。 ○注意力が増し、数・量・形・位置関係・時間などの概念が形成され始める。 ○話し言葉が一応完成する。 ○簡単な曲は大体間違いなく歌う。 ○色使いが多様になる。 ○想像力が豊かになり描画や粘土工作においては特徴的なイメージを表現しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康・安全などの生活に必要な習慣の意味を理解し、すすんで守る。 ○乳歯から永久歯への移行が始まる。 ○運動機能が発達し、危険を予測したときや集団協議などで必要に応じて体のコントロールをする。 ○自分なりの課題をもって、意欲的に運動する。 ○指先が器用になり、かなり細かい作業をする。 ○考える力が強まり、行動力が増し、一人ひとりの集団に参加する態度が自主的、自律的になる。 ○遊びの内容が複雑になり、思考力が豊かになる。 ○話の内容が豊かになり人にもわかるように話す。 ○やや高度な曲も歌う。 ○メロディや曲想を聞きわけ、合奏したり身体で簡単な創作表現をする。 ○想像力が豊かになり、お話作りや劇あそびが盛んになる。 ○いろいろな素材や用具を使って製作活動が盛んになる。
<p>自 己 中 心 の 時 代</p>	<p>意 欲 の 時 代</p>	<p>挑 戦 の 時 代</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ○一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ○基本的な身の回りのことは自分でする。 ○遊びの中で十分に体を動かし、全身をつかって遊ぶ。 ○簡単なルールのある遊びやごっこをし、友達とのつながりを深める。 ○身近な動植物や事象に触れ、親しみを持つ。 ○保育者や友達の話の聞いたり、自分の意思を伝えたりする。 ○様々なものを見たり、触れたりする中で、おもしろさ、美しさに気づき感性を豊かにする。 ○絵本、童話、視聴覚教材などに親しみ、簡単な内容や面白さを楽しむ。 ○感じたことや思ったことを自由に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的生活習慣が身につき、自主的な行動をする。 ○友達と楽しく食事をしたり、いろいろな食べ物を食べる楽しさを味わう。 ○全身運動を活発にし、のびのびと行動する。 ○遊びや生活の中で望ましい友達関係を広げる。 ○外国の人など自分とは異なる文化を持った人の存在に気づく。 ○身近な動植物や自然事象に興味や疑問を持つ。 ○日常生活に必要な挨拶をすすんでしたり、感じたこと、考えたことを話す。 ○童話、絵本、紙芝居などを見たり聞いたりして夢やイメージの世界を広げ、活発に表現活動する。 ○歌う、音楽を聞く、身体の動きや楽器などでリズム表現し音楽リズムに親しむ。 ○いろいろ身近な素材を使って、共同制作をしたりして造形を楽しむ、その作品で遊ぶ喜びを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○規則正しい生活習慣が確立し、流れに従ってごく自然に行動する。 ○食事をするの意味がわかり楽しんで食事をする。 ○遊びや生活の中で運動機能の発達を図り、身近な運動用具を正しく安全に使う。 ○目標に向かって努力し、積極的にいろいろな運動遊びをする。 ○異年齢の子どもに関心をもち、遊ぶ楽しさを味わう。 ○友達との関係の中で自分を十分発揮し、相手も認めていく。 ○自分なりに見通しをもって課題にとりくみ、成就感を味わう。 ○身近な動植物に興味や疑問を示し、いたわりの気持ちをもって世話をする。 ○身のまわりの事象に興味をもち見たり試したり考えたりする。 ○身近な時間や文字に興味や関心をもつ。 ○経験したことや思ったことを他の人に理解できるように話したり、人の話を最後まで聞いて行動に移す。 ○曲の感じをつかんで歌ったり心情を理解して身体表現をする。 ○いろいろな楽器に親しみ、吹いたり鳴らしたりする。 ○いろいろな素材を工夫して使い、自分達で考えたものを創造的に表現する。